

並行して、学問を体系的に学ぶための「健康・スポーツ総論」，「生涯活動教育論」を履修します。これらを総合的に学ぶことで、学校体育，社会体育などの各種の運動指導場面を考慮した実践的指導力と生涯スポーツへの素養を育みます。

3年次以降は，「スポーツ生理学」，「学校保健」，「スポーツ医学」，「スポーツ経営学」，「スポーツ心理学」，「身体表現論」，「コーチング論」などを学びます。各授業科目で理論的に学んだ内容をもとに，「保健体育科教育方法・評価論」，「保健体育科フィールドワーク演習」においてカリキュラム作成，教材開発，指導案作成などの実際的な課題遂行の中で実践的能力を育みます。

4年次では，プログラム全体を通しての能力開発を行います。特定の専門領域・専門科目に集約し，卒業論文としてまとめることを目指します。

上記のように編成した教育課程では，講義，実技，演習等の教育内容に応じて，アクティブラーニング，体験型学習，オンライン教育なども活用した教育，学習を実践します。

学修成果については，シラバスに成績評価基準を明示した厳格な成績評価と共に，本教育プログラムで設定する到達目標への到達度の2つで評価します。

5. 開始時期・受入条件

プログラムの開始（選択）時期は，1年次。

6. 取得可能な資格

教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより，中学校教諭一種免許（保健体育），高等学校教諭一種免許（保健体育）を取得できる。又，指定された科目を修得することにより日本スポーツ協会公認「スポーツリーダー」「ジュニアスポーツ指導員」「スポーツプログラマー」「アシスタントマネージャー」，健康・体力づくり事業団「健康運動実践指導者」の講習が免除され，資格認定試験の受験資格が取得できる。さらに，日本スポーツ協会公認コーチ等の資格を取得するための基礎となる「共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の修了証を取得できる。

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は，別紙1の履修表を参照すること（履修表を添付する）。

※授業内容は，各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」, 「優秀(Very Good)」, 「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S (秀: 90点以上)	4
A (優: 80~89点)	3
B (良: 70~79点)	2
C (可: 60~69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00~4.00
優秀(Very Good)	2.00~2.99
良好(Good)	1.00~1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

9. 卒業論文(卒業研究)(位置づけ, 配属方法, 時期等)

卒業論文(卒業研究)は本プログラムの集大成であり、特定の研究課題に向け、健康やスポーツに関わる専門家としての力量をその課題解決に集約するものである。3年次後期開始時に研究分野と卒業論文指導教員を決め、指導教員の指導のもとで準備を進め、4年次で卒業論文を作成する。卒業論文指導教員の決定の条件は、原則として3年次後期末までに当該教員の授業(講義及び演習あるいは実験)の履修が修了していることである。研究テーマが決定した後、卒論テーマ発表、中間発表、最終発表が義務づけられる。

10. 責任体制

(1) PDCA責任体制(計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action))

本プログラムは、主として教育学部の健康スポーツ系コースを担当するスタッフによって遂行される。その責任はプログラム責任者(健康スポーツ系コース主任)にある。PDCA責任体制は本プログラム委員会が行う。

(2) プログラムの評価

教育的効果と社会的効果の2つの観点から評価する。教育的評価では、学生の学習効果を判定する。社会的効果では、プログラムの学習結果の有効性を判定する。

○評価の実施方法

原則として入学して4年経た年次にプログラムの成果を評価する。教育的効果に関しては、学生の到達率による評価、及び教員グループによる総合的評価によって行う。社会的効果に関しては、学生の教員採用試験の合格率による評価、各種の社会体育関係資格の合格率、全体的な就職率、そして大学院への進学率などによって評価する。

○学生へのフィードバック

プログラムの評価結果は、プログラム担当委員会において、プログラム内容の見直し、改善と共に、学生指導、各授業科目の効果を検討し、下学年のプログラム運営に反映させる。

教 養 教 育 科 目 履 修 基 準 表

第四類 健康スポーツ系コース（健康スポーツ教育プログラム）

区分	科目区分	要修 得単 位数	授業科目等	単位 数	履修区分	履修セメスター(注1)														
						1年次		2年次		3年次		4年次								
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ							
教養教育科目	平和科目		2		2	選択必修	○													
	大学 教育 基礎 科目	大学教育入門		2	大学教育入門	2	必修	○												
		教養ゼミ		2	教養ゼミ	2	必修	○												
	領域科目	人文社会科学系科目群		10	(注4)	1又は2	選択必修	○	○	○	○									
		自然科学系科目群		10		1又は2	選択必修	○	○	○	○									
	共通科目	外国語科目 (注2)	英語	コミュニケーション基礎		0	コミュニケーション基礎Ⅰ コミュニケーション基礎Ⅱ	1 1	/											
				コミュニケーションⅠ(注3)		4	コミュニケーションⅠA コミュニケーションⅠB	1 1		/	○									
			コミュニケーションⅡ(注3)		コミュニケーションⅡA コミュニケーションⅡB		1 1	/	○		○									
			初修外国語(注5)		ベーシック外国語Ⅰ ベーシック外国語Ⅱ ベーシック外国語Ⅲ ベーシック外国語Ⅳ		1 1 1 1		/		○ ○	○ ○								
		情報・データサイエンス科目		4	情報・データ科学入門 (注6)		2 2				必修 選択必修	○ ○	○							
		健康スポーツ科目		2		1又は2	選択必修			○	○									
		社会連携科目		0		1又は2	/													
		基盤科目		0		1～3	/													
		自由選択科目		0		1～3	/													
		計		40																

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「オンライン英語演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：時間割編成の都合上、1セメスターは「コミュニケーションⅠA」及び「コミュニケーションⅠB」が、2セメスターは「コミュニケーションⅡA」及び「コミュニケーションⅡB」が指定されている。

注4：教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。
なお、「コミュニケーション上級英語」、「インテンシブ外国語」、「海外語学演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な領域科目（人文社会科学系科目群）の単位に代えることができる。

注5：ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語のうちから1言語選択すること。

注6：「コンピュータ・プログラミング」、「知能とコンピュータ」、「データサイエンス基礎」、「ゼロからはじめるプログラミング」、「教育のためのデータサイエンス」を対象とする。

学部履修基準

第四類（生涯活動教育系）

○ 健康スポーツ系コース（健康スポーツ教育プログラム）

科目区分等				要修得単位数		
教 養 教 育	平和科目			2	40	
	大学教育基礎科目	大学教育入門		2		
		教養ゼミ		2		
	共通科目	領域科目	人文社会科学系科目群			10
			自然科学系科目群			10
		外国語科目	英語			4
			初修外国語			4
		情報・データサイエンス科目				4
		健康スポーツ科目				2
	基盤科目			0		
自由選択科目			0			
専 門 教 育	専門基礎科目			22	88	
	専門科目			29		
	専門選択科目			31		
	自由選択科目					
	卒業研究			6		
合 計				128		

<履修上の注意>

『自由選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、31単位まで認める。

区分	授業科目	開 単 位 設 数	履 修 セ メ ス タ ー								免許法該当科目	備 考	
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ			
専 門 科 目	スポーツ経営学演習	2							○			「体育原理、体育心理学、体育経営 管理学、体育社会学、体育史」・運 動学（運動方法学を含む。）	
	スポーツ心理学	2							○			〃	総合科学部
	体育科教育概論演習	2							○			教科の指導法（保健体育）	
	体育科授業プランニング論演習	2							○			〃	
	保健体育科教育方法・評価論	2						○				〃	
	保健体育科フィールドワーク演習	2							○			〃	
	身体表現論	2					○					「体育原理、体育心理学、体育経営 管理学、体育社会学、体育史」・運 動学（運動方法学を含む。）	
	身体表現論演習	2							○			〃	
	スポーツコンディショニング論演習	2							○			〃	
	コーチング論	2						○				〃	
	コーチング論演習	2							○			〃	
	トレーニングと評価	2								○		〃	
	陸上競技指導演習	2				○						体育実技	
	器械運動指導演習	2							○			〃	
	ダンス指導演習	2						○				〃	
	水泳指導演習	2						○				〃	
	球技指導演習A（バレーボール）	2						○				〃	
	球技指導演習B（ゴール型・ベースボール型）	2				○						〃	
	球技指導演習C（バスケットボール）	2					○					〃	
武道指導演習A（柔道）	2						○				〃		
トレーニング実習Ⅱ	1					○					〃		

主専攻プログラム(健康スポーツ教育プログラム)における学習の成果

評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 学校体育とその教育における基本的知識と理解	中等学校を中心とした学校体育を十分理解しており、その問題点や課題に対する改善策を提案できる。	中等学校を中心とした学校体育に関する知識や理解を持ち、その問題点や課題を理解、指摘できる。	中等学校を中心とした学校体育に関する基本的な理解ができている。
	(2) 社会体育とその教育における基本的知識と理解	社会体育を十分理解しており、その問題点や課題に対する改善策を提案できる。	社会体育に関する基本的な理解を持ち、その問題点や課題を理解、指摘できる。	社会体育に関する基本的な理解ができている。
	(3) 健康やスポーツに関する1)2)を含んだ幅広い知識と理解	健康やスポーツに関する幅広い知識と理解を持ち、総合的・批判的に検討できる。	健康やスポーツに関する基本的な事項に対する知識と理解を持ち、その問題点や課題を理解、指摘できる。	健康やスポーツに関する基本的な事項に対し、理解ができている。
能力・技能	(1) 学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。また、学校体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。	中等学校を中心とした学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、総合的・批判的に検討でき、改善策を提案できる。また、中等学校を中心とした学校体育に関するカリキュラム(目標・内容・方法)を総合的・批判的に分析したり、デザインとして提案することができる。	中等学校を中心とした学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマに適切にまとめ、検討できる。また、中等学校を中心とした学校体育に関するカリキュラム(目標・内容・方法)を適切に分析したり、デザインしたりすることができる。	中等学校を中心とした学校体育に関する資料・情報を収集し、関連づけて考えることができる。また、中等学校を中心とした学校体育に関するカリキュラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。
	(2) 社会体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。また、社会体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。	社会体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、総合的・批判的に検討でき、改善策を提案できる。また、社会体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を総合的・批判的に分析したり、デザインとして提案することができる。	社会体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマに適切にまとめ、検討できる。また、社会体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を適切に分析したり、デザインしたりすることができる。	社会体育に関する資料・情報を収集し、関連づけて考えることができる。また、社会体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。
	(3) 健康やスポーツに関する諸問題に関心を持ち、それらを研究することができる。また、各種の運動指導場面において諸条件を考慮した実践的指導力を持っている。	健康やスポーツに関する諸問題に関心を持ち、それらを一定の視点から総合的・批判的に研究し、解決策を提案することができる。また、各種の運動指導場面において諸条件を十分に考慮した高い実践的指導力を持っている。	健康やスポーツに関する諸問題に関心を持ち、それらを一定の視点から適切に研究することができる。また、各種の運動指導場面において諸条件を考慮した実践的指導力を持っている。	健康やスポーツに関する諸問題に関心を持ち、それらを研究することができる。また、各種の運動指導場面において実践的指導力を持っている。
総合的な力	(1) 個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を企画・立案、実行することができる。	個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を総合的・成功的に企画・立案、実行することができる。	個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を適切に企画・立案、実行することができる。	個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を企画・立案、実行することができる。
	(2) 健康やスポーツに関わる専門家として、研究や諸活動でリーダーシップを発揮することができる。	健康やスポーツに関わる専門家として、研究や諸活動で適切なリーダーシップを十分発揮することができる。	健康やスポーツに関わる専門家として、研究や諸活動でリーダーシップを発揮することができる。	健康やスポーツに関わる専門家として、研究や諸活動に参加することができる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

健康スポーツ教育プログラムにおける教養教育は、専門教育を受けるための学問的基礎づくりを担う。つまり、人類や社会が抱える歴史的・現代的課題について、多角的な視点から考察することができる力を育成する。また、外国語能力を身につけるとともに、情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び、情報の処理や受発信を適切に行うことができる。さらに情報を活用するためのモラルと社会的課題について理解することができる能力を育成します。

別紙4 健康スポーツ教育プログラム カリキュラムマップ

(専門教育における) 学習の成果	教養教育 到達目標	1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	1)学校体育とその教育における基本的知識と理解	大学教育入門(◎)		体育科教育概論(△)	体育科カリキュラムデザイン論(△)	保健体育科教育方法・評価論(△)	スポーツ心理学(△)	トレーニングと評価(△)	
		領域科目(○)	領域科目(○)	領域科目(○)	領域科目(○)	スポーツ生理学(△)	保健体育科フィールドワーク演習(△)		
		健康スポーツ科目(○)	健康スポーツ科目(○)	バイオメカニクス(△)	救急看護法(△)	スポーツ医学(△)			
	2)社会体育とその教育における、基本的知識と理解	大学教育入門(◎)		バイオメカニクス(△)	救急看護法(△)	保健体育科教育方法・評価論(△)	スポーツ心理学(△)	トレーニングと評価(△)	
		領域科目(○)	領域科目(○)	領域科目(○)	領域科目(○)	スポーツ生理学(△)	保健体育科フィールドワーク演習(△)		
		公衆衛生学(△)		体育科教育概論(△)	学校保健(△)	スポーツ医学(△)			
	3)健康やスポーツに関する1)2)を含んだ幅広い知識と理解	領域科目(○)	領域科目(○)	領域科目(○)	領域科目(○)	保健体育科教育方法・評価論(△)	スポーツ心理学(△)	トレーニングと評価(△)	
		公衆衛生学(△)		体育科教育概論(△)	学校保健(△)	スポーツ生理学(△)	保健体育科フィールドワーク演習(△)		
				バイオメカニクス(△)	スポーツ社会学(△)	スポーツ医学(△)			
能力・技能	1)学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。また、学校体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。	教養ゼミ(◎)	英語(○)	ダンス(△)	野外活動演習(ウィンタースポーツ)(△)		体育科教育概論演習(△)		
		英語(○)	初修外国語(○)	水泳(△)			体育科授業プランニング論演習(△)		
		初修外国語(○)	健康スポーツ科目(○)	武道A(柔道)(△)			スポーツ生理学演習(△)		
		情報・データサイエンス科目(○)	体づくり運動・器械運動(△)	球技D(テニス)(△)			コーチング論演習(△)		
		健康スポーツ科目(○)	球技C(バスケット)(△)				スポーツ社会学演習(△)		
		陸上競技(△)	トレーニング実習I(△)				スポーツ経営学演習(△)		
	2)社会体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。また、社会体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。	教養ゼミ(◎)	英語(○)	ダンス(△)	野外活動演習(ウィンタースポーツ)(△)		体育科教育概論演習(△)		
		英語(○)	初修外国語(○)	水泳(△)			体育科授業プランニング論演習(△)		
		初修外国語(○)	体づくり運動・器械運動(△)	テニス(△)			スポーツ生理学演習(△)		
		情報・データサイエンス科目(○)	球技C(バスケット)(△)	武道A(柔道)(△)			コーチング論演習(△)		
		陸上競技(△)	トレーニング実習I(△)				スポーツ社会学演習(△)		
		武道B(剣道)(△)					スポーツ経営学演習(△)		
	3)健康やスポーツに関する諸問題に関心を持ち、それらを研究することができる。また、各種の運動指導場面において諸条件を考慮した実践的指導力を持っている。	球技A(バレー)(△)					身体表現論演習(△)		
		球技B(サッカー・ソフト)(△)					スポーツコンディショニング論演習(△)		
		野外活動演習(登山・キャンプ)(△)							
							スポーツ生理学演習(△)		
							スポーツ社会学演習(△)		
							スポーツ経営学演習(△)		
総合的な力	1)個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を企画・立案、実行することができる。	平和科目(○)	健康・スポーツ総論(◎)	陸上競技指導演習(△)	生涯活動教育論(◎)	水泳指導演習(△)	器械運動指導演習(△)		
				球技指導演習B(ゴール型・ベースボール型)(△)	ダンス指導演習(△)	球技指導演習A(バレー)(△)	保健体育科フィールドワーク演習(△)		
				球技指導演習C(バスケット)(△)	武道指導演習A(柔道)(△)				
				トレーニング実習II(△)					
2)健康やスポーツに関わる専門家として、研究や諸活動でリーダーシップを発揮することができる。		健康・スポーツ総論(◎)		生涯活動教育論(◎)			卒業論文(◎)		

教養教育科目 専門基礎 専門科目 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

別紙5

健康スポーツ教育プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
上田 毅	教授	6840	B108	tueda@
沖原 謙	教授	6835	B302	okihara@
齊藤 一彦	教授	7151	B305	saitoh@
出口 達也	教授	6849	B203	deguchi@
岩田 昌太郎	准教授	6836	B318	ishotaro@
黒坂 志穂	准教授	6844	B213	shihok@
小木曾 航平	准教授	7153	B303	kogisok@
柳岡 拓磨	准教授	6846	B207	yanaoka@
尾崎 雄祐	助教	6842	B212	yozaki@

※E-mail アドレスは「@」のあとに、「hiroshima-u.ac.jp」を付けて送信してください。

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

（霞：082-257-（内線番号4桁））

（東千田：082-542-（内線番号4桁））